

期 昭和五八年一月二四日～二月四日  
於 図書館三階閲覧室（本館）

枕草子 — 写本・版本・古注釈 —

枕草子は、清少納言の筆になる、あまりに有名な随筆集である。この枕草子は異本も多く、伝本系統の研究も盛んで、三巻本、能因本、堺本、また孤本である前田本など伝本の流れも興味深い。枕草子は、本来「清少納言枕草子」と呼ばれたらしい。成立年代は明確ではないが、長保二年八月と思われる記事が最後であるので、長保二年（西暦一〇〇〇年）以後に完成したとする説が有力である。

(1) 枕草紙

（黒川文庫）

写本二冊（上・下） 「江戸前期写」 美濃判 一〇行書き 朱筆書き入れ 奥書に「這本以後光嚴院宸翰不違一字書写功了云々」という、後光嚴院（北朝の天皇西暦一三三一～四八年在位）の宸翰本から書写した旨が示されている。

(2) 枕草紙

（黒川文庫）

写本二冊（上・下） 美濃判 一三行書き 奥書なし 見返しに「本書近衛植家公息女慶福院殿筆」とある。 題簽「清少納言枕草紙」、表紙には「異本」と朱筆。「新宮城

書藏」（水野忠央）など蔵印がある。

(3) 枕草子

（黒川文庫）

版本七冊 美濃判 十一行書き 慶安二年（西暦一六四九年） 京都 沢田庄左衛門板 黒押型表紙 原題簽「清少納言」 表紙には朱筆で「異本」とある。また「春曙抄」の巻次が朱筆で書き込まれている。

(4) 枕草子春曙抄

（常磐松文庫）

北村季吟著  
版本十二冊 他に装束撮要抄一冊を付す。美濃判 清水浜臣本 黒川春村校本 朱筆書き入れ 付箋多し。享保十四年（西暦一七二九年） 京都 上坂勘兵衛板  
この「春曙抄」の名称は、「枕草子」の第一段の書き出し「春は曙（あけぼの）……」によってつけられたと言われ、江戸前期の学者北村季吟（西暦一六二四～一七〇五年）の有名な注釈書であり、「源氏物語湖月抄」と双壁をなす著者の代表作である。

(5) 清少納言万歳抄

（黒川文庫）

加藤盤斎著

版本十五冊 美濃判 延宝二年（西暦一六七四） 京都 田中権兵衛板 内題（貼紙して）  
「清少納言枕草子抄」 清水浜臣蔵印 第一冊見返しに、加藤盤斎の略伝の貼紙がある。  
この「万歳抄」は、枕草子研究書として、類書に先立ってあらわされたものである。